

ここから広げよう!!

各学部の先生からのオススメ本

READING LIST

人文学部 澤田 治 先生



金田一春彦 著
『日本語』新版 上・下

岩波新書, 1988年1月-3月(岩波新書)
【所在】図・開架・PB
【請求記号】810/Ki42/1, 810/Ki42/2

本書は、様々な言語との比較を通して、日本語の発音、語彙、表記法、文法について考察している。例えば、文法の章では、英語の複数形のsは、物を表す名詞にも有生名詞にもつくことができるが(例: trees, students)、日本語の「たち」は、物につくことはできないということが議論されている(例: 「学生たち」/? 「木たち」)。本書を読むことで、日本語の特性のみならず、言語の多様性についても知ることができるであろう。

教育学部 松本 昭彦 先生

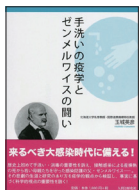


京楽真帆子 著
『牛車でいこう!:
平安貴族と乗り物文化』

吉川弘文館, 2017年7月
【所在】図・開架・図書
【請求記号】682.1/Ky5

平安時代の乗り物である「牛車」について、文化的意義を含めて紹介・考察する。唐車・檳榔毛・糸毛車・網代車といった種類ごとの形状や材質、乗る人の身分やランク付け、用法や、それに乗ることの社会的意味など、多様な観点からの考察がある。また牛車を牽く牛や、松平定信の『輿車図考』という江戸時代の研究書など牛車周辺の諸事項にも考察が及ぶ。牛車を中心とした平安時代の乗り物文化についての興味深い一冊である。

医学部 谷村 晋 先生



玉城英彦 著
『手洗いの疫学と
ゼンメルワイスの闘い』

人間と歴史社, 2017年2月
【所在】図・開架・図書
【請求記号】498.6/Ta79

原因不明の疾患と向き合い、あらゆる視点から発生頻度を比べてどこまでも原因を追究する科学を「疫学」という。本書は疫学の歴史エピソードであり、産褥熱から多くの妊婦の命を守った感染防護の父・ゼンメルワイスが、権威主義による否定や抵抗に妨げられながらも、事実に基づいて産褥熱の感染経路を科学的に明らかにし、予防方法を確立した史実である。史実だからこそ面白い。

工学部 小林 正 先生



片山泰久 著
『量子力学の世界:
はじめて学ぶ人のために』

講談社, 1967年6月(ブルーバックス)
【所在】図・開架・図書
【請求記号】421.3/Ka84

私が高校生の時、本屋さんで見つけた量子力学の本である。量子力学が生まれた歴史がわかりやすく解説されている。教科書で結果だけが数行で書かれていることでも、多くの科学者の努力の結果として発見された。発見とは、言われてみれば簡単だが、言われなければ気が付かないものである。そして、世界で一番最初に気が付いた人が偉いのであって、それを知っていても偉くはない。

生物資源学部 白水 貴 先生



大園享司 著
『基礎から学べる菌類生態学』

共立出版, 2018年3月
【所在】図・開架・図書
【請求記号】474/O78

どちらかというと“わかりにくい”生物である菌類について基礎から学びたい方にぴったりの教科書。全12章のうち、はじめの9章で菌類の基礎生物学や生態機能などの基本事項、残りの3章で菌類を対象とした生態学的研究の方法についてわかりやすく解説されている。菌類という生き物を理解するために押さえておくべき基本から、近年新たに取り入れられている研究手法まで一通り学ぶことができる。

教養教育院 赤岩 隆 先生



フィリップ・K・ディック 著
浅倉久志 訳
『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』

早川書房, 2011年6月(ハヤカワ文庫)
【所在】図・開架・図書
【請求記号】933/D72

1982年公開の映画『ブレードランナー』に原案を提供したフィリップ・K・ディックのSF小説。同映画の続編が『ブレードランナー 2049』として昨年公開され、同小説も話題になっている。『電気羊』の出版は1968年で、アンドロイド(レプリカント)や空飛ぶ車は出てくるが、スマホもパソコンも、遺伝子やクローン話も出てこない。これははたして、新しいのか古いのか。小説を読みDVDを観て、確かめる価値あり。